

## 日本ヤタガラス協会設立の主旨

世界各地にみられるカラス（三足鳥）神話。宇宙や人類の創生とも関わる深遠な存在です。日本には中国大陸から朝鮮半島を経て「飛来」してきたと言われていました。

特に熊野三山にはシンボルとして八咫鳥（ヤタガラス）という三本足の鳥がいます。伝承では神武天皇東遷の折に、アマテラスの使いとして大和の国へ道案内をした建国のヒーローです。八咫とは長さの単位で大きいという意味です。三本足は太陽の三光線であり、それぞれ天・地・人を表す太陽の化身とも言われています。

日本各地にヤタガラス伝承が広がっています。近年では日本サッカー協会のマークにもなっていることで有名です。各地のヤタガラス伝承を情報交換しながら、それぞれの地域振興の魅力ある素材として役立てていき、その精神文化の意義を考えていければと思っています。

一方朝鮮半島には、高句麗の古墳壁画や百済の武寧王陵遺品に三足鳥が表されており、かつては魂の再生を祈る太陽信仰の象徴でした。八咫鳥が朝鮮半島から日本に飛来したという事実を知っている人は少ないようです。

そこで私たちは八咫鳥と三足鳥の起源が同じであることを多くの人に伝え、八咫鳥（三足鳥）を通じた文化交流の必要性を説いていきたいと思っています。

すでに設立されている韓半島三足鳥（八咫鳥）交流協会と協力して、多くの韓国人が八咫鳥に進化した三足鳥を見るために来日し、私たちも八咫鳥の起源を探るために韓国を訪れ両国間の文化交流を深めていきます。

将来は東アジア共同体を考え、日本と韓国が力を合わせて協力しながら、中国などにも加入してもらえるよう声をかけることにより、人・文化・観光での交流が深まることを願っております。

ヤタガラス伝承が、中国から韓国・百済へ、さらに熊野の神武天皇神話に表されたように、ヤタガラスを「東アジアの友好の鳥」としたいと考えています。

将来、八咫鳥がユネスコの世界無形文化遺産（神話・伝説）として登録されることを期待してやみません。